

【断る勇氣】……鈴木

最近、ある方に次のようなことを言われました。

「相手に対し勇氣を出して断る姿勢も大切だよ」と。



イエスマンという言葉があります。人から頼まれることを全てノーと言わずに引き受けていくことです。私は、頼まれるとなぜか断ることが出来ないことが多々あります。断ることで何か大きなものを失うとは思ってはいないのですが、なぜか断り切れないことがあります。人がいいね、と言われることがあります。自分ではあまりそんな風には思っていないのです。今まで地元の自治会の会計（4年間）、体育部長（8年間）、公民館会計（今年3月迄の2年間）と頼まれてやってきました。しかし、毎回頼まれると自分でも断る理由が無く言われるがまま引受けてしまって、妻には、なんでそんなことまで引き受けるの？と言われてたり、後になって家族には、ちょっぴり皮肉られたりしました。

そこで、具体的にやらなければいけないのは、まず真摯に断ること。正直な理由を述べて、さらに逆提案をしてみる。お願い自体を自分にしかできないものに変えてしまえばいいのです。少し考えてみるね、とひと呼吸おいてみるのも良いかと思えます。最終的に断るにしろ、「よく考えた結果、やっぱりお受けできません」と伝えるほうが相手も納得しやすいはず。やんわりとお断りする、という言い方も相手への印象はぐっと良くなると思います。冒頭で言われた言葉で、周囲の人のためにも、断るべきところははっきり断ることが肝心だと

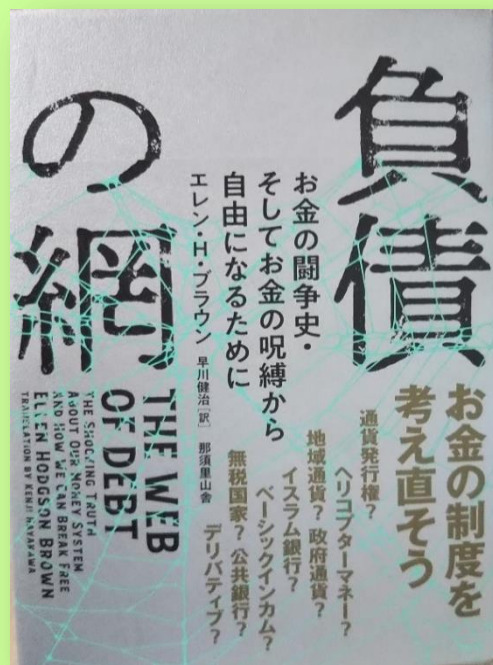
思うようになりました。

なぜかマイナスイメージの強いイエスマンですが、時と場合によってはイエスマンの方が高く評価される場合もあるのです。しかし、その場の雰囲気を読む事ができれば、イエス・ノーどちらにしても、勇氣をもって言ってみようと思います。

書籍紹介 「負債の網」

知人から贈呈を受けたが500ページを超える超大作でとても手に負える本ではない。そこでキャセイ航空の機中で読もうと狭い座席の中で悪戦苦闘の上に読み切った。実際は読むより見たと言いが相応しい。超難解なのです。ただ、時間をかけてしっかり読めば理解できないことはないと思う。

中身は「通貨」に関するあれこれです。即ち、お金の発行の歴史とお金の呪縛と自由をオズの魔法使いから拝借し、話は進みます。著者は1945年生まれの女性です。



ビクトリアの滝



ビクトリア空港での現地人出迎え



リビングストーン像

